

多様な担い手（定年就農者等）を確保

～講義やほ場実習を通じて学ぶ、生き生き&チャレンジ農業セミナー開講！～

山口 直宏（東三河農林水産事務所田原農業改良普及課）

【平成27年2月16日掲載】

【要約】

田原市が主催する「生き生き農業セミナー」、「チャレンジ農業セミナー」は農業改良普及課等関係機関の支援により地域の定年就農者等の育成の場として、多様な担い手の確保に成果をあげている。

1 はじめに

田原市は農業改良普及課と連携し、平成22年度より中高年の就農希望者を対象とした「農業セミナー」を2コースを開講した。26年度の受講者は30歳以下2名（夫婦）、50歳代6名、60歳代6名、70歳代3名である。

表 セミナーの概要

コース	生き生き農業セミナー	チャレンジ農業セミナー
目的	春夏、秋冬野菜の栽培管理から収穫作業まで行う。講座とほ場実習を行う。産直等の出荷を目指す	新たに農業経営を始めた又は始めようとする方で農業を生活の糧にするため、指導農家（専業）より技術経営を学ぶ
対象	市内在住、在勤者	市内在住、在勤者
期間、回数	4月～2月、月2回程度	4月～2月、指導農家作業日（年間10回程度）
定員	10名	1コース10名（キャベツ、ブロッコリーコース）
場所	市内共同ほ場、市民センター	指導農家ほ場
会費	年間5,000円	無料
備考	指導農家（農業経営士）が指導	指導農家（専業）がトレーナーとして指導
募集方法	年齢制限はない。募集は市の広報（3月）、多数の場合は抽選	

2 内容

(1) 「生き生き農業セミナー」

「生き生き農業セミナー」は指導農家等が講師となり、赤羽根地区のほ場で受講者が野菜を共同栽培する。会費は種苗や肥料代等に充てられる。受講者は年間計画に沿って、トマト、ナス等の春夏野菜を13品目、秋冬野菜はキャベツ、ブロッコリー等の秋冬野菜を8品目栽培し、土づくり、施肥、畝立て、追肥等の栽培管理全般から収穫までの作業を指導農家の指導助言により実習している。

また、講義は座学で5回実施し、「春夏野菜の栽培」、「秋冬野菜の栽培」、「病虫害対策及び土づくり」



写真1
生き生き農業セミナー
（ほ場の準備）

に加え、8月にはセミナーほ場で収穫した夏野菜等を使った料理講習会の講師を農業改良普及課職員が行い、受講者の交流の場となっている。

さらに、受講者と福祉施設との交流が行われ、10月に実習ほ場での芋ほり体験、12月に切り干しイモづくりを実施している。

(2) 「チャレンジ農業セミナー」

「チャレンジ農業セミナー」は、指導農家のほ場でキャベツ及びブロッコリー栽培の2コースで行い、種まきから収穫までの年間作業を習得する。

平成25年度に講座方式から変更し、指導農家（農業経営士等の専業農家）により年間を通じて指導を受けるトレーナー方式で行っている。

受講者は指導農家の作業日に合わせて農家ほ場等に出向き、作業の体験や見学を通じて技術の習得を行う。管理作業や経営等の質問はその場で行い、指導農家が答えている。



写真2
チャレンジ農業セミナー
(キャベツ定植作業)

3 関係機関の連携及び支援

定年帰農者等の就農支援により多様な担い手の確保、育成を関係機関が連携してすすめている。

市はセミナーで実習指導する指導農家の日程調整や受講者への参加通知等を行う。田原市農業委員会からは「農地制度について」の講義を行っている。JAは産直部会長、担当者から「産地直売について」を座学で行い、産直部会への参加を促している。農業改良普及課は、指導農家の選定やセミナーの進め方、内容について市との調整を行っている。また、パワーポイント等による座学の講師、ほ場での助言等を行っている。

4 まとめ

「生き生き農業セミナー」受講者は、実習の場で質問が多く、受講者がお互いに教えあう姿も見られるなど、積極的な姿勢で取り組んでいる。毎回の出席率が高く、継続受講する者も多い。

「チャレンジ農業セミナー」受講者は、受講品目を自らが栽培している者が多く、専業農家を志す若い夫婦も参加している。さらに、受講者の中には規模拡大を志向し、農地の借り入れを市へ相談する者も現われおり、キャベツやブロッコリーなど露地野菜における一大産地の新たな担い手として活躍が期待される。

また、平成22年のセミナー開始以来、営農計画を作成した受講者が6名、JAの部会や地元市場への出荷、直売所などへの出荷を行う受講者が12名となり、産地には多様な担い手が生まれている。